

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立文化産業交流会館	
施 設 名	滋賀県立文化産業交流会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	11,404	(千円)
	公 演 事 業	7,427 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,625 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,352 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	滋賀県次世代創造発信事業 芝居小屋「長栄座」新春公演 1. 「音楽巡礼Ⅱ」 2. 「赤と白と」	1. 令和3年1月16日(土) 2. 令和3年1月17日(日)	1. 主な演目:和楽器のための組曲「湖北物語」他。◆主な出演者:藤原道山(尺八)、横山政美、日原暢子 他 2. 主な演目:能「船弁慶」、箏曲「須磨の嵐」他 ◆主な出演者:片山九郎右衛門(能)、萩岡松韻(箏)、林千永、野村祐子 他 ◆両日の主なスタッフ:久保田敏子(両日監修)、池上眞吾(16日:企画・演出)、前原和比古(17日:企画・構成・演出)	目標値	620
		滋賀県立文化産業交流会館イベントホール内特設舞台「長栄座」		実績値	436

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1	滋賀県次世代創造発信事業 邦楽・邦舞専門実演家養成事業	◆稽古:令和2年9月~令和3年2月 まで計18回 ◆修了公演:令和3年2 月21日(日)	◆主な演目:「編曲長唄元禄花見踊」、「松づくし」、 「須磨の嵐」他 ◆主な出演者:滋賀県邦楽専門集 団「しゅはり」、永廣孝山・萩岡松柯・萩岡由子(客 演) 他 ◆主なスタッフ:久保田敏子(監修)、講師: 野村祐子、池上真吾	目標値	14
		滋賀県立文化産業交流会館小劇場 他		実績値	13

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	滋賀県次世代創造発信事業 古典芸能キッズワークショップ	◆稽古:令和2年10月～令和3年2月の間 計13回 (日本舞踊14回) ◆発表会:令和3年2月21日(日)	◆演目:箏部門:「さくらさくら」、「ことうた～日本の歌」、日本舞踊部門:「花ばたけ」、長唄「お月さま」、長唄「菊づくし」、常磐津「五色晒」 ◆講師:箏部門:田中久美子、橋本桂子、田中千鶴、片岡リサ(監修) 日本舞踊:花柳風春、花柳風弥	目標値	40(箏20、 日本舞踊20)
		滋賀県立文化産業交流会館小劇場 他		実績値	箏19名、 日本舞踊18名
2	滋賀県次世代創造発信事業 箏曲ジュニア・アンサンブル	◆稽古:令和2年9月～11月の間 計6回 ◆発表会:11月15日(日)	◆演目:参加者:「さくらさくら」、「N i n j A」、客演:「さくら変奏曲」、さらし風手事」、「花は咲く」 ◆講師:片岡リサ ◆客演:古典芸能キッズワークショップ講師	目標値	7
		滋賀県立文化産業交流会館小劇場 他		実績値	7
3	滋賀県次世代創造発信事業 アートのじかん	◆アーティスト研修:令和2年7月 計4回 ◆学校派遣:令和2年10月～令和3年2月 計20校	◆参加アーティスト研修 ◆派遣アーティスト:浅川いずみ、おちやのみ〔大石橋輝美、西谷夏、吉田周平〕、Lapin〔吉延佑里子、榎山さやか〕、おぼんざい〔佐々木涼輔、寺井優花、藤井夢音〕、ゆらぎ〔伊藤志野、岩本みち子〕、◆アドバイザー:山本若子(一財)地域創造公共ホール音楽活性化事業コーディネーター	目標値	20校(約 1,200) 内新規校 8校
		滋賀県立文化産業交流会館小劇場 練習室 県内小中学校、特別支援学級		実績値	20校 (1,021) 内新規校 8校

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>当館は、豊かな自然や暮らしの中で生まれ、受け継がれてきた、湖国滋賀の文化的資産に様々な角度から光を当て、県ゆかりのアーティスト等と優れた文化芸術事業を展開することをミッションとして掲げている。</p> <p>公演事業では、明治に長浜市で栄えた芝居小屋「長栄座」を会館イベントホール内に再現し、近江の地酒や県北部の風景をテーマにした邦楽公演『音楽巡礼Ⅱ～和楽器と歌でめぐる湖国滋賀～』と、大掛かりで垂涎の演目である「源平合戦」を取り上げ、源平芸能絵巻「赤と白と」と題し時代を彩った人々の人間模様を、平家琵琶、箏曲、長唄、舞踊、狂言、能、民謡といった日本の代表的な芸能の演目で上演した。</p> <p>両公演の期間中ロビーでは、邦楽器系製造をはじめとする湖国滋賀の伝統産業や本公演にまつわるスイーツなどを展示・販売する「近江の新しい伝統産業展」を行った。</p> <p>また、人材育成にも積極的に取り組み、邦楽演奏家を育成する「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」を行い、発表公演の他、長栄座の舞台上で一流の演奏家との共演を果たした。</p> <p>普及啓発事業では、日本舞踊と箏の部門における「古典芸能キッズワークショップ」を実施するとともに、これまで参加してきた子供たちのレベルアップを目的とした「箏曲ジュニア・アンサンブル」を結成。また、学校アウトリーチとしてオーディションに選ばれ研修を受講したアーティストを小・中学校、特別支援学校に派遣する「アートのじかん」にも取り組んだ。</p> <p>コロナ禍において、県民が文化芸術を必要とするニーズに応えるため、来場者・参加者は勿論、出演者、スタッフ共に十分な感染症対策を講じながら事業を推進した。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>平成23年度より芝居小屋を再現した「長栄座」事業を軸に、古典芸能を身近に感じてもらえるよう創意工夫してきた。公演事業では地域の景勝地を元に邦楽組曲を滋賀の美しい風景の映像とともに上演し、また、幅広い古典芸能の演目により様々なファンに向けて地域の特色を広く発信することができた。</p> <p>「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」については、年々レベルアップし、日本を代表する様々なジャンルの演奏家と共演し実績を重ねている。</p> <p>また、「古典芸能キッズワークショップ」の卒業生で結成する「箏曲ジュニア・アンサンブル」で難易度の高い現代曲に取り組む機会を設けたことにより、今後、若い演奏家が育っていくことが期待できる。</p> <p>アウトリーチ事業の「アートのじかん」では、多くの学校で課外授業が中止になる中、普段の学校生活と違った経験のできる貴重な機会を子ども達に届けた。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

当館では、県北部における文化芸術の拠点として、また、古典芸能に重点を置いた劇場として、地域や施設の特性を生かし、「1.文化芸術の発信」、「2.文化・芸術資源の発掘と活用」、「3.文化・芸術活動の支援と人材育成」、「4.文化と産業の連携」および「5.活動と交流の拠点創出」の5つの実施方針を目標に掲げて、指標についてもこれまでの実績等を勘案して、発信力と創造力の向上に努めた。成果は次の通りである。

1. 文化芸術の発信

「長栄座」公演1日目の「音楽巡礼Ⅱ～和楽器と歌でめぐる湖国滋賀」では、全体を3部構成とし、第1部では邦楽器と舞踊、歌、落語とのコラボレーションにより親しみやすくバラエティに富んだプログラムとした。第2部は新進気鋭の尺八奏者藤原道山を迎えて尺八の魅力を届けた。第3部は滋賀をテーマにしたオリジナル邦楽作品を湖国の風景の映像と共に上演。特に組曲「近江の地酒スイーツ紀行」は、2年間の歳月を掛けて制作した大作となり、ストーリー性があり、古典芸能の新たな創造力を発信することができた。

また、2日目の「源平芸能絵巻『赤と白と』～時代を彩った其々の人間模様～」では、現在でも運動会で使用されている「赤組と白組」のルーツである「源平合戦」をテーマにその時代の芸能の根底にある「慈悲喜捨(他者への思いやり)」に因んだ古典芸能7演目を上演。片山九郎右衛門出演の能「船弁慶」をはじめ、狂言、長唄舞踊、邦楽・邦舞の名作を披露し、多彩な古典芸能の持つ魅力を発信できた。

2. 文化・芸術資源の発掘と活用

「滋賀の地酒」をテーマにした新作邦楽組曲の公演を、2年計画で全6楽章の大作を完成させ上演することで、古典芸能への関心を高めるとともに、地元の魅力を再発見する機会となった。また、文化芸術の普及啓発を図る目的でアーティストを養成して学校へ派遣するアウトリーチ事業「アートのじかん」では、コロナ禍であったが、学校からの要望も強く、これまで実績のない学校の参加が8校もあり、目標の20校がクリアでき、多くの児童・生徒に音楽を身近に届けることができた。

3. 文化と産業の連携

「長栄座」公演の開催に合わせ、当事業に関わる県内の伝統産業等に焦点をあて、産業支援を目的に「近江のあたらしい伝統産業展」を実施しているが、今年度は地場産業との連携を図り出展を誘致することで、参加目標8社から10社に拡大できた。

4. 文化・芸術活動の支援と人材育成

次代を担う小中学生を対象にしたワークショップ(箏・日本舞踊)、中堅演奏家のキャリアアップを目的にした講座や実践研修を実施し、地域文化の担い手の育成に努めた。

5. 活動と交流の拠点創出

「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」、「古典芸能キッズワークショップ」および「箏曲ジュニア・アンサンブル」を実施することで、若手古典芸能実演家や次代の担い手の活動拠点となった。また、多様な事業を実施することで老若男女が集う交流の場を提供できた。

6. 主な指標の成果について

- (1) 公演事業
 - ① 入場率は目標70%に対し約59%で新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、目標を下回った。
 - ② アンケート回収率は目標25%に対し32%、顧客満足率は目標89%に対し約99%と事業内容の評価が大幅に上がった。
 - ③ 情報媒体の掲載数は目標10回に対し13回と事業の注目度が上がっている。
 - ④ 関連企画(ロビー出展)の参加企業数を目標値8社に対し10社に増加。
- (2) 人材養成事業
 - ① 養成事業の参加者が目標14名に対し13名(邦楽部門)で、近隣府県で緊急事態宣言発出の状況下であったが、ほぼ目標通りであった。
 - ② 養成事業から「長栄座」公演への出演者が邦楽・邦舞部門併せて目標14名に対して11名(一般公募の新規参加2名)で、近隣府県で緊急事態宣言発出の状況下においては健闘した。
- (3) 普及啓発事業
 - ① 古典芸能キッズワークショップの参加者が目標各20名に対し箏19名、日本舞踊18名とほぼ目標通りであった。
 - ② 箏曲ジュニア・アンサンブルの参加者が目標7名に対し7名で目標通りであった。

(参考)

助成対象事業のアンケートによる顧客の動向と傾向について

助成対象事業 パブリシティ効果(当財団調べ)

・長栄座公演 14,885,090円(昨年度9,953,070円) ・養成事業 1,053,055円(昨年度285,828円)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業（「長栄座」新春公演）

実施該当年度においても、前年度から継続して打合せを重ねて公演に臨んだ。

事業の性質上通年ベースでの制作進行（事業期間）が必要であり、概ね計画どおりに進められ、事業費の執行においても当初計画通りとなった。

当該年度は、初日に近江の地酒にインスピレーションを得た新作「近江スイーツ紀行（作：池上眞吾）の続編完結、楽日には、10回目の大きな節目に相応しく、箏曲、長唄、舞踊、狂言、能、民謡を一挙にとどける古典芸能のガラ・コンサート（祝祭）的なラインアップであったことから例年以上に精緻な計画、打合せ、執行管理が必要であった。

また、制作発表（会館内としては2回目）を行い、マスメディアを介した情報発信に努め各紙で紹介された他、NHK大阪放送局で出演者（菊中央雄司）が生出演し一部演奏もオンエアされた。

チケット販促として、財団本部の営業部と連携し、滋賀県北部の企業も複数会員となっているびわ湖ホール友の会（特別会員）への公演案内（招待：会員特別メニュー・会費から収益に振替）を行った。2公演セット券を本事業としては初めて設定したところ、購入枚数のおよそ1割であった。今後も多様な手段で収入確保に努めていきたい。

人材養成事業（「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」）

邦楽においては、オンラインによる合同練習や稽古も取り入れ、安全・安心な環境を可能な限り確保しながら事業運営に努めた。今後もこの経験を生かし、また、事業内容の充実を図るためより優秀な人材確保に努めたい。

邦舞は、様々な要因から実施するに至らなかったため、この部門の事業費を執行するに至らなかった。

普及啓発事業（「古典芸能キッズワークショップ・箏曲ジュニア・アンサンブル」）

子供たちの安全・安心な環境を確保するため、稽古回数を減らさざるを得なくなったこと、また、成果発表も簡素化したことで舞台スタッフ等の経費も減となり、事業費は当初申請より減額となった。

普及啓発事業（アートのじかん）

コロナ禍で申込数を心配したが、学校数は目標を達成した。また、新規の申込が実施全体の20校のうち8校あった。

クオリティを担保するために派遣するアーティストの事前研修を行い、申し込まれた学校とアーティストのスケジュールの調整等で事業期間としては適正であるとする。

事業費では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できた学校数は保てたが、1校当たりの実施回数が減少したため全体経費が減少した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

・視点1

(第一線の監修者を据えたメリット)

芝居小屋「長栄座」事業には、平成26年度から事業監修および舞台芸術アドバイザーとして京都市立芸術大学名誉教授の久保田敏子（文化庁文化財第4専門調査会委員、文化庁芸術祭審査委員を歴任。平成25年度京都市文化功労者表彰。）を迎えている。日本の古典芸能全般を網羅する学識経験の豊富さでは、他の追随を許さない第一級の研究者で、芸術面の諸判断、広範な人脈によるキャスティングが可能である。

(多目的で自由な劇場空間を活用)

2,000人収容の当館イベントホールは、1階客席が可動席で全て収納することができる。そこに明治16年から昭和33年まで滋賀県長浜市に実在した芝居小屋「長栄座」をモデルにした仮設の芝居小屋を期間限定で復元し、この「癒しの芸能空間」＝「長栄座」で日本の古典芸能の奥深い魅力を発信するプロジェクトを平成23年度からスタートし、今年度で10年目を迎えた。

また、公演当日に、ロビーには長浜市の和楽器絃の製造会社をはじめ、滋賀県内の伝統産業が展示ブースに出展し、匠の技を現代に活かす姿をピアーールする貴重な機会としている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

・視点2

（具体の公演での成果）

「長栄座」公演の舞台公演制作の究極のねらいは、上演作品の地域ブランド化にある。

地域に固有の資産である自然景観、文化財、名産品、民話等を舞台作品として上演する過程で新たな物語を紡いでいく作業が「楽曲の創作」と捉えている。創作曲が繰り返し再演されることで地域に根付き、地域住民の誇りや喜びとなっていくことを目指している。

1月16日（土）「長栄座」新春公演『音楽巡礼Ⅱ』では全体を3部構成とし、第一部では邦楽器と舞踊、歌、落語とのコラボレーションにより親しみやすくバラエティに富んだプログラムとした。第2部は新進気鋭の尺八奏者藤原道山を迎えて尺八の魅力を届けた。第3部は滋賀をテーマにしたオリジナル邦楽作品を湖国の風景の映像と共に上演。特に新作邦楽組曲「近江の地酒スイーツ紀行」は、実際に作曲者である池上眞吾（東京芸術大学邦楽科非常勤講師）が滋賀を訪れ、様々な人と関わりながら2年間の歳月を掛けて制作した全6楽章の大作で、将来が期待される一流の若手演奏家たちが独創的で質の高い演奏を披露した。

また、翌1月17日（日）の源平芸能絵巻「赤と白と」公演では、現在でも運動会で使用されている「赤組と白組」のルーツである「源平合戦」をテーマにその時代の芸能の根底にある「慈悲喜捨（他者への思いやり）」に因んだ古典芸能7演目を上演。菊央雄司（平成12年度文化庁奨励賞受賞）による平家琵琶「祇園精舎」、萩岡松韻（東京芸術大学教授）による箏曲「須磨の嵐」、野村祐子および林千永による邦楽・邦舞「花二題」、茂山千三郎による狂言「那須之語」、若柳吉蔵および若柳佑輝子による長唄舞踊「橋弁慶」、片山九郎右衛門出演の能「船弁慶」、成世昌平による幕間「民謡」等、至芸を披露した。

（人材養成事業での成果）

「邦楽・邦舞専門実演家養成事業」では、日本の邦楽界を代表する箏奏者野村祐子（正絃社二代家元・愛知県立芸術大学非常勤講師）と池上眞吾（作曲家・東京芸術大学非常勤講師）を講師に迎え、中堅・若手の邦楽演奏家（箏・三味線・十七絃）の技術向上を目的とし、およそ半年間、月に2～4回の稽古を重ね、加えて、受講者の創造性を促す基礎知識を育むため、久保田敏子（長栄座監修者）の講義も実施した。修了演奏会への出演で経験を積み、プロ演奏家としてのキャリア形成を図った。昨年度の邦楽コンクールに入賞した平成24年度「古典芸能キッズワークショップ」参加者が高校生としてはじめて邦楽部門の「養成事業」に参加し、プロの尺八奏者と共演を果たした。

（普及啓発事業での成果）

「古典芸能キッズワークショップ」において箏と日本舞踊の2コースで小学生を対象に約4ヶ月間にわたって技術や礼儀作法などを実技指導し、成果発表会を実施。さらに上達を目指す子どもたちは、「箏曲ジュニア・アンサンブル」コースを受講することで小学生から一般まで一貫して箏が学べる環境を整備している。

講師には、片岡リサ（箏、大阪音楽大学特任准教授）ほかを迎え、将来の湖国滋賀の邦楽界をリードできる人材育成に努めている。

「アートのじかん」では、コーディネーターの指導のもとで、学校派遣アーティストへの研修を実施し、様々な技能についての研鑽を積んだ。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当財団では、滋賀県文化振興条例および滋賀県文化振興基本方針に則り、舞台芸術をはじめとする芸術文化を振興する公益財団法人として、文化産業交流会館およびびわ湖ホールの県立2館の劇場を有機的に活用して、様々な分野と連携を図るとともに、県と密接な関係を基盤に運営を行っている。

また、当財団は、滋賀県文化振興基本方針の基本目標の実現に向けて、中期経営計画を策定し、その方針を推進するための経営戦略ならびに具体的な事業計画および収支計画に基づき、定量的・定性的な目標が実現できるよう、進行管理を行いながら取り組んでいる。

当館においては、「県北部の文化振興を担う拠点としての賑わいの創出」を目標に掲げ、市町ホール、文化活動者・団体、企業などと連携しながら、施設や地域の特色を活かし、県立の劇場・音楽堂としての使命を果たすべく、利用者・来場者のアンケート結果等も踏まえ各種事業を評価・検証している。

組織については、職員の年齢構成や専門性等を勘案し、計画的な正規職員の採用に努め、滋賀県の文化振興施策を推進する専門的集団としての組織体制の強化を図っている。なお、令和2年度から「同一労働同一賃金」の取り組みとして非正規職員の給与の見直しを行った。当館では、令和2・3年度には舞台芸術の専門的な知識を有する若手・中堅職員を、また、令和3年度には正規職員を採用した。

人事については、当館では、舞台芸術アドバイザーを配し、注力している古典芸能事業の水準を高めるとともに、専門的人材の育成を図っている。また、人事異動によりびわ湖ホール職員を当館に配置し、自主制作公演や広報営業の内容充実、および組織の活性化を図っている。さらに、人事評価制度を導入し、職員自ら設定した目標の設定に向けて、職員が発揮した能力および挙げた業績を把握・評価することにより、組織の使命や目標の達成ならびに職員の育成や能力開発につなげている。加えて、OJTや外部講師による研修等を実施するとともに、外部研修会へも積極的に参加させ、職員の専門性を高め資格の取得やコンプライアンス意識の向上に努めている。

財源確保については、平成31年度から財団に営業部を新設し、県域にわたる営業活動を当館およびびわ湖ホールと包括的に行うほか、びわ湖ホール友の会会員に当館の自主事業も案内し両劇場の相乗効果に努めている。さらに、当館のイベントホール（2,000人収容）の多目的機能を活かし多彩な事業を展開し、得られた収益等を特定費用準備資金に積み立て、記念事業に充てている。また、公益法人、民間からの補助金等の獲得や、公益財団法人の優遇税制を活かした「夢キラリ文化基金」を設け、「伝統芸能」「次世代育成」等の事業への寄付を募るなどの取り組みを積極的に行っている。

ネットワークについては、芝居小屋「長栄座」公演で、滋賀の伝統工芸・産業メーカー、滋賀県酒造組合および米原や長浜の観光協会、「ビジネスカフェ」で、滋賀県産業支援プラザ、文化・経済フォーラム滋賀等と連携して事業展開をしている。

管理運営については、施設利用者へのサービスはもとより、令和2年度は特に新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じ、安全・安心な会館運営に努めた。また、施設の更新工事や修繕工事を行い、令和3年度には、当館全館のトイレ洋式化改修工事を実施する予定である。32年が経過した当館の施設整備について、引き続き設置者である県と協議しながら計画的な改修・修繕に努めていく。